

【小神^{こがみ}字笠松から山頂へ（林道経由）】

小神から小島の小ヶ坂へ通ずる舗装された町道を進むこと一^キ、農業用のため池がある。春には桜がきれいに咲き何とも言えない風情が味わえるところである。このあたりが笠松という地区で、このため池の東側には畑と水田が延びている。その道路沿いに「森林総合整備事業 久路須線」の看板がある。この沢に対して右側の尾根には、高圧線に沿って登る登山道がある。この久路須線は、沢の左側にしっかりとした道ができていたので利用させていただこう。自家用車は町道脇の空き地に二〜三台置くので農作業の邪魔にならないよう置かせていただく登山開始。沢の左側を約八十^{メートル}進むと左側にも沢があるのでこの左側の道を進む。まっすぐ進むと途中藪をこぎながら、昔の道にたどり着くが、道は荒れているので注意が必要。

沢の左側を進む事約七百^{メートル}。道は一本道につき迷う事はなく、沢をつめる事ができる。道が右側に回り込むと、南側の視野が急に開けてきて、テレビ塔からの道や鉄塔経由の道と合流し、山頂が見えてくる。歩き始めて三十分で山頂に到着である。

【小神^{こがみ}字笠松から山頂へ（鉄塔コース）】

小神から小島の小ヶ坂に向かう途中に桜に囲まれたため池がある。ここでは、林道久路須線から登る道のほかに、東北電力の高圧線沿いに登る道がある。林道久路須線の登り口から十五^{メートル}ほどため池よりの町道添いに高圧線のルートNoを表す標識が立っている。そこが登り口である。三十^{メートル}ほど登ると鉄塔が立っている。これから山頂に向かうあたり四基の鉄塔の下をくぐりながら向かうことになる。まずは、その一つ目である。ここから三百^{メートル}ほど尾根道を進むと二つ目の鉄塔に着く。二つ目の鉄塔は、立ち寄りだけである。二十^{メートル}手前に右側（東側）に下りていく道がある。五十^{メートル}ほど緩やかに下っていくと南側に開けた湿地帯が見えてくる。さらに、前方には菖蒲池^{しょうぶ}が見えてくる。この池は、灌漑用水であるがアイオン台風で破戒され翌年から修復工事にかかった池である。右手に菖蒲池を見ながら進むと、再び高圧線のルートNo表示の標識がある。ここから、杉林に入り階段状の道を六十^{メートル}ほど登ると三つ目の鉄塔にたどり着く。ここから千貫森の姿が一望できる。道は、一時沢を下って次の尾根にあがるがここで、鶴沢^{つづき}胡麻作^{ごまたく}からの道に合流す